

先月までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2013/03/01

注目すべきポイントの多い1カ月

通貨ペア	基調		ページ数
<u>ドル/円</u>	➡	日銀次期総裁・副総裁コンビの発言は？	2 - 3
		予想レンジ: 88.00 ~ 95.50 円	
<u>カナダ/円</u>	➡	米・欧睨みの展開へ	4 - 5
		予想レンジ: 86.50 ~ 94.00 円	

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



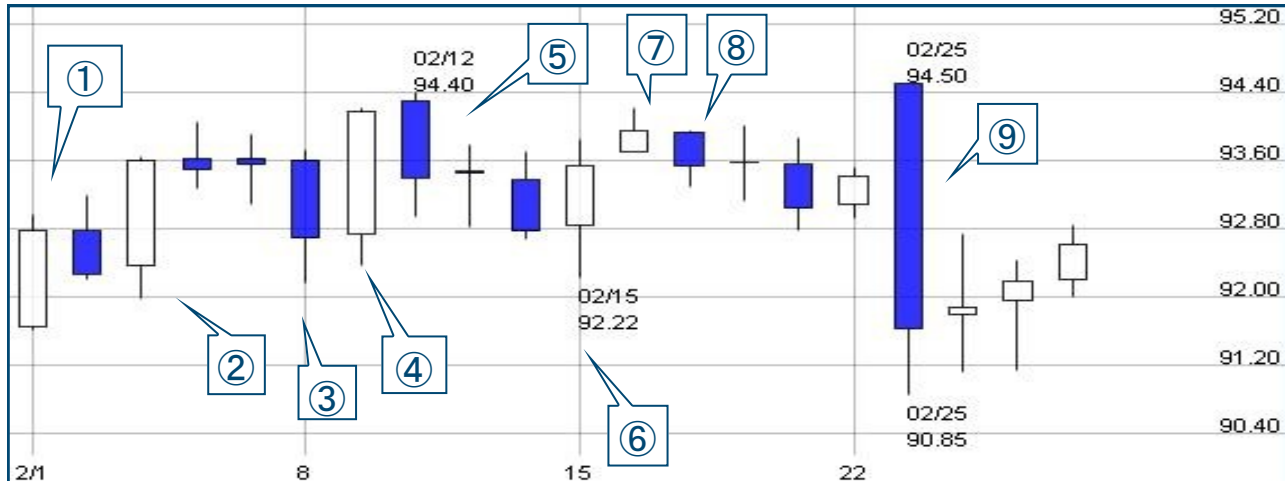
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

USD / JPY

ドル/円 2月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	91.66円	94.50円	90.85円	92.62円



①	1日、米1月雇用統計にて失業率は7.9%、非農業部門雇用者数は15.7万人増と、市場予想(7.8%、16.5万人増)よりも弱い結果となったことを受け、直後のドル/円は91.75円まで軟化した。しかし、11月・12月の非農業部門雇用者数が上方修正された上、米1月ミシガン大消費者信頼感指数・確報値が73.8、米1月ISM製造業景況指数が53.1(予想:71.5、50.7)と市場予想を上回ったことで反発した。
②	5日、夕方に株高・クロス円高が進んだ上、日銀の白川総裁が自身の任期満了(4月8日)を待たずに副総裁の任期満了(3月19日)に合わせて辞任することを表明すると、新総裁・新副総裁の下で行われる4月の日銀金融政策決定会合での大規模な追加緩和への思惑等を絡めて円安が一段と進んだ。
③	8日、麻生財務相が「我々が意図せざるくらい円安に振れた」と発言したことを受けて円が急騰した。
④	11日、アジア市場中に日銀総裁候補の1人である黒田アジア開発銀行(ADB)総裁が「日銀は年内の追加金融緩和を正当化できる」「日銀が買える資産はいくらでもある」などと発言したことが欧州市場で蒸し返され、ドル/円は上昇。さらにブレイナード米財務次官が「日本の成長支援・デフレ脱却に向けた措置を支援する」などと発言すると、ドル/円はストップを絡めながら94円台乗せとなった。
⑤	12日、G7財務相・中銀総裁が「為替は市場で決定されるべき」「各国の財政、金融政策は為替レートではなく国内に向けられることを再確認」などの緊急共同声明を発表。日本の円安政策への直接の批判がなかったことで、94.40円までドル/円は上昇した。しかし、G7当局者の話として「G7声明は誤解されており、声明は過度な円に対する懸念を示した」と報じられると急激な円高が進行。カーニー加中銀総裁が「G20で円について協議する可能性は高い」と述べたことも重石となり、92.94円まで値を下げた。
⑥	15日、「日銀総裁人事は武藤元日銀副総裁を軸に絞り込み」との一部報道やポンド/円の下げにより92.22円まで下げたが、「G20は声明を巡る協議で日本を名指しせず」等の報道で93.84円まで上げた。
⑦	18日、前週末のG20で日本の「アベノミクス」に対する直接の批判が避けられたことに加え、安倍首相が金融緩和の手段について「外債購入という考え方もある」と述べると94.21円まで円安・ドル高が進んだ。
⑧	19日、麻生財務相が「金融緩和策として外債購入することはない」と発言したことを受けてドル/円は下落した。
⑨	25日、未明に日銀総裁人事について「総裁は黒田氏、副総裁に岩田(規)氏と中曽氏で調整」と報じられると、オセアニア市場序盤に94.77円と2010年5月以来の高値を付けた。しかしそれ以上の買いは続かず、日本時間26日に入り、イタリアの総選挙でベルサニ民主党党首が率いる中道左派連合が上院で過半数を取れないとの見方が強まると全般的に円が急騰。ドル/円は90.85円まで急落した。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

USD / JPY

今月のポイント

2月のドル/円相場は90.85～94.50円のレンジで推移。月間の終値ベースでは1.1%の上昇(ドル高・円安)となった。この月は、月初に白川日銀総裁が任期満了を待たず辞任する意向を示したことによって、次の日銀総裁についての思惑、観測報道に神経質に反応する場面が目立った。特に、候補として挙げられている人物(元日銀副総裁だった武藤氏と岩田一政氏、岩田規久生氏、黒田氏)の「ハト派度合い」を比較し、武藤氏(日銀副総裁時に引き締め実行)が有力との観測が拡がると円高、その他の人物が有力とされると円安が進む、という傾向があった。また、日本の円安政策についての批判が海外から強まる中でG7声明やG20声明で日本に対して名指しの批判が出る可能性が取り沙汰され、関連する各国要人発言にもやはり神経質に反応する場面が見られた。下旬については、イタリアの政局不安を受けた金融市場全般的なリスク回避ムードがドル/円の上値を押さえた。

3月のドル/円相場については、日銀総裁人事も一服している上日銀金融政策決定会合については白川日銀総裁の辞任前ということもあり、新規の材料がでる可能性は低い。とはいえ、4月の日銀会合を控え、黒田次期日銀総裁や岩田次期日銀副総裁の発言には注目が集まるだろう。また、米経済指標や、19-20日に行われる米連邦公開市場委員会(FOMC)は随時手掛かりとなると見られる。2月の議会証言でのバーナンキFRB議長は金融政策については従来のニュートラルな姿勢を貫いており、政策変更の可能性は低い。声明における景気判断などが変化していれば、材料視されよう。さらに、イタリアの政局に関する報道などから欧州債務問題に対する市場のリスク警戒感の強さもドル/円相場に反映されると見る。金融市場全般のリスク警戒度が高ければ、クロス円の下げや米長期金利の低下などがドル/円の重石となろう。しかし一方で、イタリアの問題が軟着陸する可能性が高まるようなことになれば、再び円売りが強まり、再度95円を試す流れになる可能性があることも意識しておきたい。(ジェルベズ) (予想レンジ: 88.00～95.50円)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

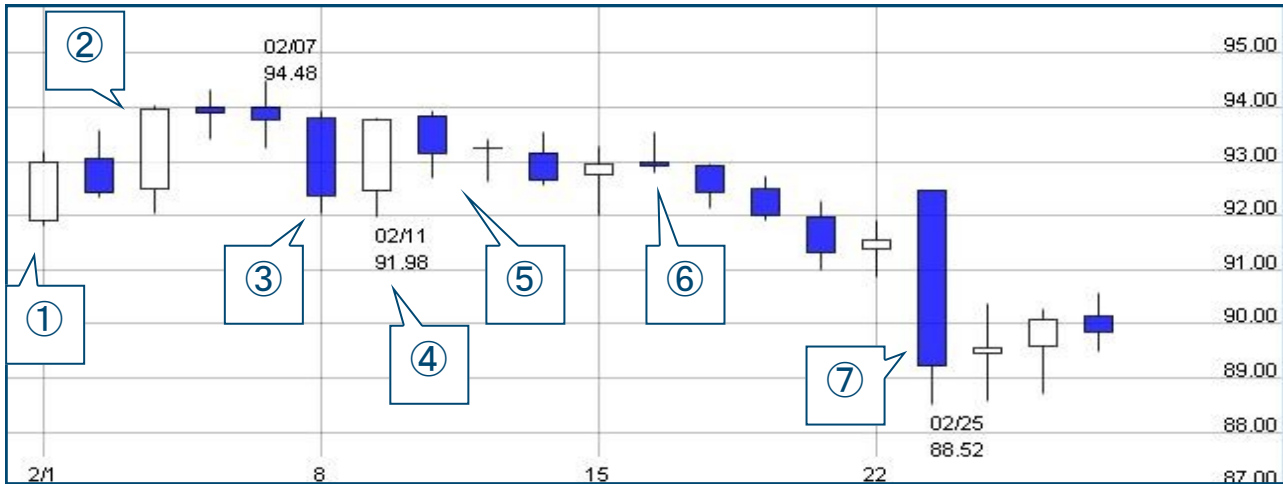
日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
3/1(金)	2月米ISM製造業景況指数	3/15(金)	2月米消費者物価指数
3/5(火)	2月米ISM非製造業景況指数		2月米鉱工業生産
3/6(水)	2月米ADP全国雇用者数		3月米ミシガン大消費者信頼感指数・速報値
	米地区連銀経済報告(ページブック)	3/19(火)	2月米住宅着工件数
3/7(木)	日銀金融政策決定会合(6日～発表)	3/20(水)	FOMC政策金利発表
	1月米貿易収支	3/21(木)	2月日通関ベース貿易収支
3/8(金)	1月日経常収支	3/26(火)	2月米耐久財受注
	1月日貿易収支		3月米消費者信頼感指数
	第4四半期日GDP・二次速報		3月米リッチモンド連銀製造業指数
	2月米雇用統計		第4四半期米GDP・確報値
3/12(火)	日銀金融政策決定会合議事要旨 (2月13日・14日分)	3/28(木)	3月米シカゴ購買部協会景気指数
3/13(水)	2月米小売売上高	3/29(金)	2月日全国消費者物価指数
3/14(木)	第4四半期米経常収支		

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

CAD/JPY

カナダ/円 2月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	91.92円	94.48円	88.52円	89.86円



① 1日、米1月雇用統計はやや弱めの結果となったものの、その後発表された米1月ISM製造業景況指数が予想を上回る好結果となった事を受けてNYダウ平均が2007年10月以来となる14000ドル台を示現。原油価格も1月高値に迫る98ドル台に上伸すると、リスク・オンの流れが強まり93円台へ上昇した。

② 5日、日銀の白川総裁が3月19日付で辞任すると表明した事を受けて円安が進行。その後も欧米株価の上昇を背景にカナダドル高・円安が進み、94.02円まで上値を伸ばした。

③ 8日、麻生財務相が「為替が我々の意図せざるぐらいに円安に振れた」「円安ペースが速すぎる」などと発言した事をきっかけに円買いが強まると93円を割り込んだ。さらに、加1月雇用統計が、失業率こそ7.0%に改善(予想7.2% 前回7.1%)したものの、雇用ネット変化が2.19万人減と弱い結果(予想0.5万人増、前回3.12万人増)となると92.05円まで下げ幅を拡大した。

④ 11日、一部通信社が「G7は、週内に為替に関する声明の発表を検討中」と報じた事などから一時92円を割り込んだ。しかしその後は欧州株の堅調推移を眺めて買戻しが優勢となり、NY市場終盤にブレイナード米財務次官が「日本の成長支援・デフレ脱却に向けた措置を支持する」と発言すると円売りが加速し、93.80円まで上値を伸ばした。

⑤ 12日、G7は「財政・金融政策は国内目標を目指し、為替相場を目標としない」などとする緊急共同声明を発表。「アベノミクス」への批判とも受け取れる内容だったが、この声明に対し麻生財務相が「日本の政策が円安誘導ではない事が正しく認識された」との見解を示すと93.94円まで上昇した。しかしその後、G7当局者が「声明は誤解されている。声明は円の過度な動きに対する懸念を示唆」と発言すると急速に円が買い戻されたほか、カナダ中銀(BOC)のカーニー総裁が「インフレ見通しがより落ち着き、家計部門の不均衡に関しても前向きな動きが出始めたことは、刺激策の終了時期が当初考えられたほど間近でないことを示唆している」などと発言した事が重石となり92.68円まで下落した。

⑥ 18日、前週末に行われたG20財務相・中央銀行総裁会議が「通貨の競争的な切り下げを回避」「競争力のために為替レートを目的とはせず」などとする声明を採択して閉幕し、日本に対する直接的な批判が避けられたとの見方から円売りが優勢となった。その後、安倍首相が「金融緩和の手段として外債購入という考え方もある」と発言すると一時93.53円まで上値を伸ばしたが、米国がプレジデントデーの祝日のため円売りは勢いを失い、92.90円台まで押し戻された。

⑦ 25日、イタリア総選挙において、緊縮財政派が過半数を獲得できない見込みとなり、再選挙が行われる可能性が浮上。イタリアの政局混迷が財政懸念につながるとの見方からNYダウ平均が200ドルを超える下げとなり、円が全面的に買い戻されると、88.52円まで下落した。

CAD/JPY

今月のポイント

2月のカナダ/円相場は88.52-94.48円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約2.1%の下落(カナダドル安・円高)となった。7日には2008年10月以来となる94.48円まで上昇したものの、15-16日のG20財務相・中央銀行総裁会議などで日本の円安誘導政策にクギを刺された事や、イタリア総選挙をきっかけに欧州不安が再燃した事から中旬以降にかけて失速する格好となった。昨年11月から続いた「アベノミクス」への期待による円安基調は明らかに勢いを失っており、3月のカナダ/円相場の焦点は日本から離れて米・欧を中心とした世界景気の行方にシフトしていくものと思われる。

具体的には、米国の強制歳出削減問題に対する議会の対応やイタリアの政局動向がカギを握る事になりそうだ。米国の強制歳出削減もイタリアの政局も、今のところ市場を大混乱に陥れるには至っていないが、問題解決に向けた協議(米国は強制削減の代替案の協議、イタリアは連立内閣樹立に向けた協議)が長引けば長引くほど不透明感は募る事になる。ただし、早期に不透明感を払拭できるようなら(米国は暫定予算が失効する3月27日、イタリアは議会召集の3月15日が一応のメドとなる)、リスク・オン相場が復活する可能性が高い。場合によってはNYダウ平均株価が史上最高値を更新する可能性もあろう。

カナダ国内に目を転じると、3月6日にカナダ中銀が政策金利を発表する。カーニー総裁は2月12日の議会証言で利上げ時期の後ずれを改めて示唆しており、今回も声明の内容が注目されよう。2月に発表された主要経済指標を眺めると、1月雇用統計では失業率こそ改善したものの、雇用者数は減少に転じ、1月消費者物価指数は前月比、前年比ともに予想を下回った上、12月小売売上高は前月比2.1%減と大幅に落ち込んだ。こうした背景からカナダ中銀の声明が再び早期の利上げに前向きな姿勢に転じる可能性は低いと思われる。(神田)

(予想レンジ:86.50~94.00円)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
3/1(金)	第4四半期加GDP	3/14(木)	第4四半期加設備稼働率
	2月米ISM製造業景況指数		1月加新築住宅価格指数
3/5(火)	2月米ISM非製造業景況指数	3/15(金)	2月米鉱工業生産
3/6(水)	加中銀政策金利発表	3/19(火)	3月独ZEW景況感調査
	1月加Ivey購買部協会指数		1月加卸売売上高
3/7(木)	日銀金融政策決定会合(6日~)		2月米住宅着工件数
	12月加住宅建設許可	3/20(水)	FOMC政策金利発表
3/8(金)	1月本邦経常収支・貿易収支	3/21(木)	2月通関ベース貿易収支
	2月中国貿易収支		1月加小売売上高
	2月加住宅着工件数	3/26(火)	2月米耐久財受注
	2月米雇用統計	3/27(水)	2月加消費者物価指数
	2月加雇用統計	3/28(木)	1月加GDP
3/13(水)	2月米小売売上高		

巻頭の特記事項を必ずお読みください。